

《あいさつ》

第 27 回大会は、愛媛大学教育学部キャンパスをお借りして、平成 29 年 7 月 28 日から同 30 日で開催いたします。現在、準備委員会をはじめ、さまざまな方のご協力をいただきながら準備を進めております。

さて今大会のテーマですが、「ブリーフセラピー×教育」とさせていただきます。

これには私が普段から教育学部に勤めているので、教育に関係するみなさんにたくさんご参加いただきたいという思いもあります。

またブリーフと教育をかけ合わせると何が起こっていくのかといった関心もございます。ブリーフと教育の素晴らしい協働をご覧くださいと思います。

本大会では、会場の関係上、シンポジウム等は 2 会場制にさせていただいています。ご協力いただきます学会内外の諸先生方には、深く感謝いたします。どちらを見ようか、ご参加いただく先生方には大いに悩んでいただければ、大会長冥利に尽きます。

また学会では四国遍路をもじった「ブリーフ遍路」というスタンプラリーを予定しています。学会に参加してどんどんスタンプを貯められてください。

大会の合間には道後温泉、鯛めしや愛媛甘とろ豚、また幻の繁殖魚「すま」を使った郷土料理などがみなさんを存分に楽しませると思います。日本各地、様々な領域のみなさま、ぜひとも愛媛、松山にお越し下さい。準備委員会一同、心を込めてお接待いたします。

日本ブリーフサイコセラピー学会第 27 回松山大会 大会長 相模 健人

《日本ブリーフサイコセラピー学会第27回大会松山大会概要》

会期 2017年7月28日(金) ワークショップ
7月29日(土) 大会1日目、懇親会
7月30日(日) 大会2日目

会場 愛媛大学教育学部
〒790-8577 愛媛県松山市文京町
愛媛大学 公式サイト (<http://www.ed.ehime-u.ac.jp/>)

会場へのアクセス (<http://www.ed.ehime-u.ac.jp/~edhp/sub/access/>)

- JR松山駅から
 - ① 伊予鉄道市内電車「JR松山駅前」(JR松山駅から徒歩2分)
 - ② 環状線1番に乗車
 - ③ 「赤十字病院前」下車、北へ徒歩2～5分 愛媛大学正門前
- 松山市駅から
 - ① 伊予鉄道市内電車「松山市駅」(屋外徒歩1分)
 - ② 環状線1番または環状線2番に乗車
 - ③ 「赤十字病院前」下車、北へ徒歩2～5分 愛媛大学正門前
- 松山観光港から
 - ① 連絡バス乗車、「高浜駅」到着
 - ② 伊予鉄道郊外線にて、「古町駅」下車
 - ③ 伊予鉄道市内電車 環状線1番に乗換
 - ④ 「赤十字病院前」下車、北へ徒歩2～5分 愛媛大学正門前
- 空港から
 - ① 松山空港リムジンバス乗車(松山市駅・道後温泉行き)
 - ② JR松山駅にて下車 ※上記「JR松山駅から」を参照

※なお、自動車でご来場の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。
ただし、数に限りがあるため、可能な限り自動車でのご来場はお控えください。

懇親会会場 松山全日空ホテル (<http://www.anahotelmatsuyama.com>)
〒790-8520 愛媛県松山市一番町 3-2-1

交通案内/地図 (<http://www.anahotelmatsuyama.com/facilities/access/>)

- ① 松山空港から バス：約30分(一番町バス停下車)/ タクシー：約20分
- ② 松山観光港から バス：約40分(一番町バス停下車)/ タクシー：約40分
- ③ JR松山駅から バス：約10分(一番町バス停下車)/ タクシー：約8分/

市内電車：約 10 分 (大街道電停下車)

④ 松山インターチェンジから 車：約 25 分

⑤ 大会会場 (愛媛大学教育学部)より徒歩 20 分 (会場からの案内あり)

事務局

名称：日本ブリーフサイコセラピー学会第 27 回松山大会事務局

所在地：〒790-8577 愛媛県松山市文京町

愛媛大学教育学部 相模健人研究室内

FAX：089-927-9526 e-mail：matsuyama2017@jabp.jp

第 27 回松山大会ウェブサイト (詳細は 2 月初旬に公開予定)

URL：http://www.jabp.jp/information/index2.html

第 27 回松山大会ブログ

URL：http://matsuyama2017.sblo.jp/

《大会ワークショップ(2017年7月28日(金)13:00~18:00)》

(1) ~不登校に役立つ~ ブリーフサイコセラピー入門(研修委員会企画)

講師：喜多 徹人(神戸セミナー)

内容紹介：

心理学の知識がない方にも理解できて、現場で役立つワークショップを目指します。

中学生、高校生の不登校にはブリーフサイコセラピーのアプローチが効果的だと考えています。対象は、心理の専門家ではないけれど不登校の生徒に何とか良いかかわりができるようにになりたいと思われている学校教員のみなさま、およびブリーフは役に立ちそうだと思われている SC のみなさまを想定しています。担当する講師はもともと予備校講師です。それでも実践的な学びを続けているうちに、それなりにできるようになりました。経験から学んだ実践的なノウハウはお伝えすることができます。目標は、役に立つことと楽しく学ぶことです。

(2) ミルトン・エリクソン入門

講師：津川 秀夫(吉備国際大学)

内容紹介：

アリゾナの砂漠の町に不思議な医師が住んでいました。難治とされた患者でもそこに通うと次々に元気になっていきます。彼の治療は実に奇妙で、不眠の患者に床のワックスかけをさせ、夜尿の少年とアーチェリーの話で盛り上がります。さらには、マニラ封筒に妄想を入れて送ってこいと言ってきます。その男こそ「20世紀最大の臨床家」と称されるミルトン・エリクソンです。

エリクソンは、硬直した問題パターンを崩し、リソースを刺激し、速やかに解決に導きます。そのための治療手段は、メタファー、トランス、パラドックス、クリスタルボールテクニックなど多岐にわたり、それらの一つひとつにユニークで柔軟なエリクソンの世界を見ることができます。

このワークショップでは、エリクソニアン・アプローチを初歩から体験を通して学びます。参加者の皆さまには、エリクソンの臨床の一端を明日から実際に使えるようになっていただきます。

もっと自由に、もっと柔らかく、もっと楽しく臨床をしたい人の参加をお待ちしています。

(3) ロールプレイと模擬面接で学ぶ、認知行動療法における見立てと手立ての橋渡し

講師：西川 公平(CBTセンター)

内容紹介：

認知行動療法は数々の優れた理論と技法の集大成であることは確かですが、大方のセラ

ピストはそれらに振り回されるばかりで、目の前のクライアントさんとともに会話が成立していません。

困りごとが何であれ、技法が何であれ、それらを運用していく上で必要になってくるのが会話です。残念なことに、認知行動療法は、そのような会話が既に出来る事が前提となっている療法ですから、認知行動療法を学ぶことによって会話の技術が向上するという事はありません。

今回ワークショップで 5 時間の枠を頂いたので、皆さんがクライアントさんのやり取りでお困りになっている各場面に対して、どう認知行動療法に載せていくのかロールプレイを通じてお伝えできればと思っています。また、なぜ会話が成立しないで、逆に技法に振り回される羽目になるのかも、ロールプレイを通じてご理解、ご体験頂ければ幸いです。あまりグダグダと理論を述べるワークショップではありません。「認知行動療法とは何か」については、各自本を買って事前に学んでおいてください。

本ワークショップでは下記アドレスから事前にアンケートを取りますので、もしご回答いただければ、その内容に沿うよう鋭意努力します。

<https://goo.gl/forms/Flf63wWeMo6fFWVz1>

(4) 「アドラー・カフェ」へようこそ！～実践のためのアドラー心理学入門

講師：八巻 秀 (駒澤大学)

内容紹介：

アドラー心理学は、フロイトやユングと同時代のヨーロッパやアメリカで活躍した精神科医アルフレッド・アドラーが創始した心理学です。その考え方は、カウンセリングなどにとどまらず、子育てや教育、ビジネスの世界など、多彩な分野に影響を及ぼしてきました。日本に紹介されてから既に 30 年以上経っていますが、現在、日本では初めての「アドラー心理学ブーム」になっていて、次々と関連本が出版されて、マスコミでも取り上げられるようになっていきます。

そんなブームに踊らされずに (?), このワークショップでは、アドラー心理学の基本をしっかりと押さえながら、それを日常生活や現場で実践できるような学びの時間にしたいと思います。講義とグループワークを織り交ぜながら、ブリーフサイコセラピー学会らしく、楽しみながら学んでいただきたいな～と思っています。

アドラー自身が、ウィーンのカフェで仲間と語り・学び合ったように、参加者の皆さんも「アドラー・カフェ in 愛媛大学」で、大いに語り・学び合きましょう。

アドラー心理学に初めて触れる方、本は読んだけどどう活かすかわからないという方、アドラー臨床をバリバリ実践している方、どなたでも参加可能です。どうぞお気軽にご参加ください。

(5) Anticipation/Future Dialogues アンティシペーション・ダイアログ :

Remembering the future 未来を思い出す、ネットワーク・ミーティング

講師：白木 孝二 (Nagoya Connect & Share)

長沼 葉月(首都大学東京)

内容紹介：

アンティシペーション（先のことを予想すること）によって、未来から現在(いま)を振り返り、思い出すダイアログ・アプローチです。オープンダイアログと同様にフィンランドで始まり、教育や福祉現場で、マルチ・プロフェッショナル（複数の専門家）とマルチ・セクター(複数機関)が同時に関与する、複合的な問題を抱えたケースへの対応として発展したものです。4 月には開発者である、トムとロバートのアンキル兄弟の来日研修会も開かれました。重要なのは、未来語りの足場としての、**taking up one's worries** と **early open co-operation** のプロセス。

(6) 初学者向け学校向けシステムズ・アプローチ入門 (仮)

講師：田中 究 (関内カウンセリングオフィス)

内容紹介：

システムズ・アプローチと申しまして、本ワークショップは学校臨床をテーマとした初学者向けの内容となっております、イメージとしてはデパ地下の試食コーナー。変わった味かもしれないけれど、美味しいかもしれないし、ちょっとならいいか、くらいのおつもりでご参加ください。講義といくつかのエクササイズを行う予定です。学校臨床以外の分野に従事している方も、もちろん大歓迎。とはいえ、複数の関係者によるコミュニケーションをシステムとして捉える視点、既存のシステム観を転覆するオートポイエーシス、これらは総じて、固定化されている経験をシャッフルしてくれることでしょう。

(7) 解決志向アプローチを学校課題に活かす サポートグループ・アプローチ

講師：八幡 睦美 (小樽市立望洋台中学校)

内容紹介：

『サポートグループ・アプローチ』は『解決志向アプローチ』と『ピア・サポート (仲間による相互支援)』を組み合わせたハイブリットな新しい手法です。この手法の特徴は、問題や原因に言及せず (誰も責めない)、解決像 (より良い状態) やリソース (内外の資源) などに焦点を当てる解決志向アプローチの理念やスキルを基盤としています。そして、解決志向のピア・サポートグループとより多くの関係者が、協働して効果的に取り組むことです。

講座では、具体的な事例やワークを通して、学校課題に対応する『サポートグループ・アプローチ』のエッセンスを明日からの実践に活かせるようお伝えします。

(8) ブリーフセラピー、催眠法、動作法の同化的統合という「一粒で三度美味しい(?)」アプローチの実際(仮題)～ブリーフサイコセラピー入門～(定員：20名)

講師：長谷川 明弘(東洋英和女学院大学)

内容紹介：

講師は、生涯にわたる発達段階への支援に向けて、可能な限り短期間で効率的な支援を目指すブリーフサイコセラピーを実践する中で、ブリーフセラピー、催眠法、臨床動作法といったアプローチを基盤にして相互のアプローチ・モデルの視点や技法、態度を積極的に取り入れてきた(同化的統合)。具体的には、個人内界には主に催眠法を、個人や人と人との間、家族を含めた集団・組織対個人にはブリーフセラピーを取り入れている。臨床動作法は、人の動作という心理的プロセスを資源とみなして肯定的に活かしている。

研修会では、講師が行った面接映像を提示して解説したり、実践の中で行っている工夫をロールプレイを通じて参加者相互に共有して実践を見直してみたりと実践にもう一工夫を加えたい参加者をお待ちしています。

《基調講演 (2017年7月29日(土)11:00~12:30)》

公開講演 (定員約 300名)

◇世界で一番短い詩・俳句

講師：八木 健 (萬翠荘館長)

司会：石丸 雅貴 (アキクリニック)

講師略歴：1940年、静岡県生まれ。日本大学芸術学部卒業後、NHKに入社。アナウンサーとして40年間勤務。現在、国重要文化財萬翠荘館長、滑稽俳句協会会長、浪曲虎造節保存会創立名誉会長、俳句美術館館長。俳句と川柳に「失われた滑稽」を取り戻す活動をしている。月刊俳句総合誌「俳壇」で滑稽句欄の選者を15年続けている。日本農業新聞でも俳句と川柳の選者を担当。愛媛CATVで俳句と川柳の句会半組を五年前から放送している。いずれも全国唯一の本格的句会番組で両番組は滑稽俳句協会のホームページからバックナンバーを視聴できる。NHK勤務時代は若者大賞の音楽番組FMリクエストアワーを10年間、俳句の句会番組「俳句王国」を10年間担当。著書には「滑稽俳句集」微苦笑俳壇の13年全句「八木健の川柳アート」～、愛媛新聞連載10年全作品(第31回愛媛出版文化賞)「人生でいちばんいい俳句が詠める本」(主婦と生活社)、「教師のための俳句読本」(蝸牛新社)などがある。DVD作品に「こころを洗う旅 四国霊場を俳句に詠む」全四巻、「八木健のすらすら俳句術」などがある。【いずれも「えひめ工芸」 お問い合わせ090-5140-8826】

※基調講演のみに参加を希望される方のために一般受付を行います。申し込みされた人の中から抽選によって参加者を決定させていただきます。

《新学会長講演 (2017年7月29日(土)10:00~10:45)》

◇タイトル未定

講演：新学会長

司会：新副学会長

《大会企画A (2017年7月29日(土)15:45~17:45)》

◇災害後の学校コミュニティへの支援を考える～「始める」「続ける」「終える」の3つの視点から～

話題提供：區藤良(山形大学保健管理センター/山形県スクールカウンセラー)、後藤沙苗(岩手県教育委員会巡回型カウンセラー)、法澤直子(長崎純心大学地域連携センター/長崎県スクールカウンセラー)

指定討論：加来洋一(山口県立こころの医療センター)、田中ひな子(原宿カウンセリングセンター)

司会：田崎みどり（長崎純心大学地域連携センター）

企画趣旨：

災害支援は、いつ、どの組織から派遣されるかで、任される範囲や支援者自身を取り巻く環境が全く異なります。とりわけ災害後の学校支援は、地域、あるいは組織によってニーズが変化していくため、支援者はその中でのポジションや、そのタイミングで任された役割を意識し、随時冷静な選択をしていくこととなります。

組織の一員として被災地に入る中で、どのように自身の言動を選択することが、災害後の学校コミュニティへの有効な支援に繋がるのか。それを問い直すことがこのシンポジウムの目的です。災害後の学校コミュニティに限らず、ブリーフサイコセラピーの視点に基づいた「有効な支援」とは何かについて、今一度考えてみませんか。

《大会企画B「ブリーフ×教える」(2017年7月29日(土)15:45~17:45)》

◇教育場面におけるブリーフセラピーの実践報告

話題提供：浅原雅恵(倉敷市立大高小学校)、加藤雅世子(星生学園)、佐々木誠(岩手大学)

指定討論：黒沢幸子(目白大学)

司会：小田哲志(愛媛大学)

企画主旨

未来志向、リソースなどのブリーフセラピーが持つものの見方や捉え方は、児童・生徒への個別の対応はもとより、不登校やいじめの予防活動、授業や学校経営などにも幅広く活用されてきた。本シンポジウムでは、ブリーフセラピーが児童・生徒の成長を育むうえで、どのように役立てられるのか、これまでに実践を積み重ねてきた方々からお話を聴き、改めてブリーフセラピーの有用性や魅力を知る機会としたい。また、近年の教育現場の現状やこれからを踏まえた際、ブリーフセラピーに期待されることについて検討していく。

《大会企画C「ブリーフ×教育×エビデンス」(2017年7月30日(日)10:45~12:45)》

◇教育場面におけるブリーフセラピーの実証研究

話題提供：相模健人(愛媛大学)鈴木俊太郎(信州大学)、富田英司(愛媛大学)

指定討論：遠山宜哉(岩手県立大学)

司会：足立智昭(島根大学)

企画主旨

ブリーフセラピーは教育現場で様々な活用されている。しかし、その実証性についてはこれまで十分に検討されていないと考えられる。本シンポジウムではブリーフセラピー、またはその考え方を活用しながら、実践ないしエビデンスを残そうとする研究者から研究

を紹介していただき、改めて教育現場におけるブリーフセラピーのあり方、その実証性について考えていきたい。

《大会企画D「ブリーフ×学ぶ」(2017年7月30日(日)14:15~16:15)》

◇様々な職種からブリーフを学んだ人たちのナラティブ

話題提供：青木安輝(ソリューションフォーカス)、喜多徹人(神戸セミナー)、西健太郎(光輝病院)、渡部隆(愛媛県警察今治警察署)

指定討論：竹之内裕一(ソリューションランド)

司会：相模健人(愛媛大学)

企画主旨

ブリーフセラピーについては心理療法を専門とする臨床心理士以外にも多様な分野の方が学んでいることが多い。本シンポジウムではブリーフセラピーを心理の分野以外から学ぼうとした者がどのような動機でブリーフセラピーの世界に迷い込み、そこで何を学び、それぞれの領域でどのように活かしていったのかについて語り合い、ブリーフセラピーの可能性について考えていきたい。

《学会企画(研修委員会企画/2017年7月30日(日)14:15~16:15)》

◇公認心理師とブリーフサイコセラピー：それぞれの現場から期待と責務について

話題提供：赤津玲子(龍谷大学)、加藤匡宏(愛媛大学)、黒沢幸子(目白大学)、東畑開人(十文字学園女子大学)

司会：坂本真佐哉(神戸松蔭女子学院大学)

企画趣旨

シンポジウムは、「公認心理師とブリーフサイコセラピー：それぞれの現場から期待と責務について(仮題)」として、公認心理師資格がスタートするにあたり、さまざまな現場で活躍する先生方から国家資格への期待や責務、はたまた資格そのものの意義についてなど、ブリーフサイコセラピー領域内外の専門家も含め討論していただくと考えています。具体的には、「医療の現場から」、「教育の現場から」、「養成の立場から」、「人類的観点から」などです。乞うご期待!

《自主シンポジウム募集の案内》

第 27 回松山大会では、大会テーマとして「ブリーフ×教育」を掲げました。自主シンポジウムは、会員が自主的にテーマの設定、企画、運営を行うものです。以下の点にご留意いただき、企画責任者が申込の手続きをしてください。お申し込み多数の場合、企画趣旨に基づき、実行委員会にて採択を決定しますのでご了承ください。

企画責任者の資格

申込時および大会開催時点で日本ブリーフサイコセラピー学会の会員に限ります。

シンポジストの資格

大会開催時点で日本ブリーフサイコセラピー学会の会員に限ります。会員以外の方をシンポジストにする場合は、できるだけその方に入会をお勧めください。入会をして頂けない場合は、企画者からその方の「非会員参加の理由（推薦）」を、大会事務局に提出していただく必要があります。

シンポジウムの内容

「ブリーフサイコセラピー」に直接関係する内容で企画してください。大会テーマの「ブリーフ×教育」と連動させていただいても構いません。

開催日時等

2017年7月29日(土)午後と7月30日(日)の午前に枠を設ける予定です。時間枠は1セッションあたり2時間です。お一人が複数の自主シンポジウムへ登壇される場合は、申込時にその旨(どなたが他の自主シンポジウムに登壇予定など)を記してください。なお、お一人が3つ以上の自主シンポジウムへご登壇されることはご遠慮願います。

シンポジウムの運営

大会事務局は会場の提供以外は一切関与しません。会場設営、後始末など、すべて企画関係者が行い、会場を原状に戻し、所定時間内に終了できるようご協力ください。

申込方法と締め切り

企画責任者は「自主シンポジウム申込」である旨を件名から分かるようにして、企画趣旨に関する企画名と文章(400字以内)と登壇者名(所属と会員・非会員の情報含む)を入力の上、大会事務局(matsuyama2017@jabp.jp)へお申し込みください。2017年3月31日(金)が申込締切です。

開催申込の採否の連絡とその後の連絡

応募多数の場合には、企画趣旨に基づき、実行委員会にて採択を決定します。余裕がある場合には、締切後も受付を行います。開催申込の採否は 4 月 10 日 (月)までにご連絡いたします。採択された企画につきましては、大会事務局から通知される自主シンポジウム原稿作成要領をご確認の上、原稿・その他必要な情報を 2017 年 4 月 24 日 (月)必着で大会事務局 (matsuyama2017@jabp.jp)宛に送信してください。原稿は、発表と同様に Web に掲載するだけでなくプログラム・抄録集に掲載します。なお採否に関する問い合わせは一切受け付けません。

《学術大会お申し込みについてのご案内》

第 27 回松山大会では、演題発表申し込み・ワークショップ参加・大会参加・懇親会参加等、全ての申し込みをインターネットの大会専用ウェブサイト、

<http://www.matsuyama2017jabp.jp>

より受け付けます。お手数をお掛けいたしますが、何卒ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。なお、万が一、ホームページからのお申し込みが困難な場合は、大会事務局(matsuyama2017@jabp.jp)までお問い合わせください。

〈ワークショップおよび大会参加へお申し込みの方〉

第 27 回松山大会専用ホームページより、お申し込み手続きを行ってください。ワークショップおよび大会参加の事前参加受付締め切りは 2017 年 6 月 9 日 (金)です。ワークショップは、申し込み時点で第 3 希望まで伺います。また、ワークショップはそれぞれ先着順でお申し込みを受け付け、定員になり次第お申し込みを締め切らせていただきますので、お申し込みはお早めをお願いいたします。ワークショップのお申し込み結果につきましてはお申し込み日以降、皆様の e-mail アドレス宛にご連絡をさせていただきます。なお、大会参加、ワークショップともに、受付締め切り後は、当日の受付のみとなります。

大会参加費

大会、ワークショップ、懇親会への参加費の内訳は以下の通りとなっておりますのでご参照ください。

参加区分	学術大会		ワークショップ		懇親会	
	予約参加	当日参加	予約参加	当日参加	予約参加	当日参加
学会員	7,000円	8,000円	7,000円	9,000円	7,000円	不可
非学会員	8,000円	9,000円	8,000円	10,000円	7,000円	不可
学生	5,000円	6,000円	5,000円	6,000円	6,000円	不可

参加費の振込先

参加費は下記の振込先へお振り込み願います。なお、払込み手数料は申し込み者ご自身の負担となりますので、ご了承お願いいたします。また、登録を取消しされた場合、1 度お振込みになった費用の返金はおこなっておりません。登録内容の修正は受け付けますので、参加登録内容の修正をご希望の際には大会事務局までご連絡ください。

振込先：伊予銀行 郡中支店

口座番号：1866435

口座名：日本ブリーフサイコセラピー学会 第 27 回大会 事務局 大会長 相模健人

参加登録の確認

事前参加登録申し込みデータの大会事務局への到着と参加費の入金確認をもって登録手続きが完了します。その後、事務局から参加登録確認のご連絡をさせていただきます。

懇親会について

2017年7月29日(土)18:30~20:30(於:松山全日空ホテル)

懇親会への参加をご希望の場合は、第27回松山大会専用ホームページより事前にお申し込みください。お申し込み締め切りは2017年6月9日(金)です。当日申込はございません。

お食事について

28日(金)、29日(土)は大学内の学食、生協をご利用いただけます。他には会場最寄りにある店舗をご利用ください。

宿泊

宿泊先は各自ご予約をお取りください。大会会場は伊予鉄道市内電車「赤十字病院前」すぐです。JR松山駅、松山市駅、大街道(懇親会会場周辺)、道後などからも市内電車が出ており、アクセスに便利です。宿泊先選択の際のご参考にしてください。

〈演題発表お申し込みの方〉

発表時間は「30分枠」「60分枠」を用意しております。演題のご発表をご希望の方は、発表主旨・発表内容に応じていずれかの時間枠を選んでいただき、第27回松山大会専用ホームページより、お申し込み手続きをおこなってください。演題発表申し込み締切は2017年3月31日(金)です。演題発表抄録につきましては、2017年4月10日(月)までに同ホームページよりご送付ください。

演題発表申し込みについての諸注意

- (1) 演題発表は、主発表者ならびに共同発表者も本学会員に限ります。
- (2) 演題発表は原則として先着順に採用させていただき、各枠が埋まり次第締め切らせていただきます。
- (3) お送りいただいた抄録原稿は、大会事務局が倫理・会則委員会に依頼して倫理の配慮がなされているかどうかを確認させていただきます。場合によっては抄録の加筆修正や発表の取り消しを求める場合がありますので、下記事項に十分留意してください。

抄録原稿および投稿論文等の倫理的配慮に関するガイドライン

日本ブリーフサイコセラピー学会

- ① 発表者はユーザーのプライバシーを保護する責任を有します。
- ② 学会発表についてその目的をユーザーに説明し、できるだけ了解を得ておくこと

が望ましいです。ただし、やむを得ず了解がとれない場合は、個人情報と同定されないようプライバシーの保護には十分に留意してください。

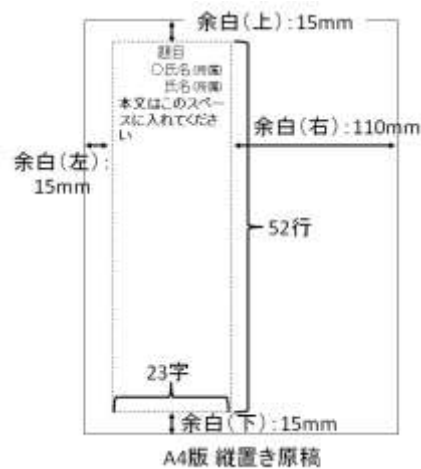
- ③ ユーザーを同定する情報とは、人名、地名、職業、職場名、学校名、家族の職業、居住地名などです。事例理解のため必須情報として表記する場合には、固有名詞は使用せず一般名称にとどめます。
- ④ 固有名詞を記号化する場合には、実際のイニシャルは使用せず、A・B・C 順などにしてください。
- ⑤ 治療期間等については、開始時を「X 年〇月」などとし、その後の経過は「X+〇年△月」あるいは「〇年後・△か月後」などと表示してください。

参考：大会抄録集文書書式

演題申し込み者は下記の要領に従った抄録原稿を、期日までに第 27 回松山大会ウェブサイト (<http://www.matsuyama2017.jabp.jp>)よりご送付願います。詳しくは第 27 回松山大会ウェブサイトをご参照ください。

[抄録原稿作成要領]

- ① 原稿サイズは A4 版縦置き原稿 1 枚です。テキスト形式もしくは Microsoft Word で作成したファイルをお送りください。手書きのものは受け付けておりません。なお、Microsoft Word で作成した場合、拡張子は doc と docx のどちらでも構いません。
- ② 抄録原稿の冒頭に、「題目」・「発表者」・「所属」をお書きください。所属名が長い場合は次行に亘って構いません。連名発表の場合は主発表者の氏名の前に○を付けてください。
- ③ フォントは全て「MS ゴシック」です。また、文字の大きさは「所属」のみ 8 ポイントとし、それ以外は 10 ポイントとしてください。
- ④ 字数は「題目」と「発表者」を含めて 23 字×52 行以内に収めてください。
- ⑤ 図表は合計面積が図中の破線枠内全体の 1/3 を超えないようにしてください。なお、図表として写真を掲載することはできません。
- ⑥ 演題発表の際には、原則として PC とプロジェクターをご使用願います。PC とプロジェクター以外の機材の使用をご希望の場合は、大会事務局までお問い合わせください。



《託児サービスについてのご案内》

第 27 回松山大会では、初めて託児サービスを設けることにいたしました。小さなお子様をお持ちの方も安心してご参加いただけます。託児サービスを希望される方は、以下の項目をご確認いただき、インターネットの大会専用ウェブサイト (<http://www.matusyama2017jabp.jp>) よりお申し込みください。

開設日時

- ① 7月28日(金) 12:00~18:30
- ② 7月29日(土) 9:15~18:15
- ③ 7月30日(日) 8:30~17:00

託児人数

8名/各日(定員に達し次第締め切らせていただきます)

対象年齢

0歳(6か月)~就学前まで

場所

愛媛大学内 ※セキュリティ確保のため、お申込者のみにご案内いたします。

委託先

株) マミーズファミリー 公益社会法人全国保育サービス協会 (ACSA) 正会員

料金

各日 3500 円 (税込)/お一人

※ホームページで申し込まれた際に、大会参加費と一緒に振込みください。

申込締切

4 月 10 日 (月)

保険

不慮の事故に対応するために、マミーズファミリーが保険に加入しており、保険適応範囲で補償いたします。日本ブリーフサイコセラピー学会、及び、松山大会事務局は事故の責任を負わないことを申し添えます。

注意事項

- ※ お子様が急病の場合は、お預かりすることができません。
- ※ お申し込みの際に、①緊急連絡先、②お預けするお子様の名前・年齢、③食べ物アレルギーの有無、④その他託児にあたっての注意すべきことを教えてください。
- ※ お食事の用意はございません。昼食時はお子様をお迎えいただくか、昼食をお持ちください。おやつ・お茶のご用意はあります。

以上の点、安全かつ円滑にお子様を託児するために、ご理解・ご協力をいただけたらと思います。

《お問い合わせ窓口》

本大会に関してご不明な点がございましたら、以下にご一報ください。

日本ブリーフサイコセラピー学会第 27 回松山大会事務局

愛媛大学教育学部 相模健人研究室内

FAX : 089-927-9526 e-mail : matsuyama2017@jabp.jp

URL : <http://matsuyama2017.jabp.jp>

大会運営日程

演題発表申込締切	2017 年 3 月 31 日 (金)
自主シンポジウム締め切り	2017 年 3 月 31 日 (金)
抄録原稿締め切り	2017 年 4 月 10 日 (月)
事前予約登録締め切り	2017 年 6 月 9 日 (金)